

発行 / 中野島地区社会福祉協議会  
 川崎市多摩区登戸 1763  
 ライフガーデン向ヶ丘2階  
 福祉パルたま内  
 地域課 : TEL 935-5500  
 FAX 911-8119  
 発行人 / 田村 弘志  
 編集人 / 総務部



社協シンボルマーク  
 社協は社会福祉協議会の略称です

# なかのしま

2017.1.15 No. 32 (年2回発行)

中野島地区社協のテーマ

この地域  
 誰もが暮らしやすい  
 中野島・布田

## 中野島のこんな事知っていますか 田村 弘志

戦時中の中野島(その一)

戦中、戦後の中野島はどんな状況だったのか振り返ってみたいと思います。のかな農村地帯であった中野島に小学校はなく、農繁期になると託児所が毎年開設されました。稲荷神社に親たちが滑り台や手作り遊具を作り、先生を雇って楽しい場所を作ってくれました。お弁当を持って行き、本殿で食べましたが、ある子がバナナを持ってきて、みんなで少し分けてもらった記憶があります。たぶんバナナとの、初めての出会いであったと思います。

私は、昭和17年に登戸小学校に入りました。だんだん戦争が色濃くなるにつれて、学校の半分は軍隊の兵舎になりました。もちろん、グラウンドも兵隊の訓練場として使われていました。米軍の攻撃が激しくなり、東京から児童集団疎開により、登戸小学校にも多くの生徒が疎開してきました。しかし、先生もクラスも別授業でしたので、どこから来たのか知らされていませんでした。親戚を頼ってきた子供達はすぐ親しくなり、都会の生活についていろいろ話を聞かされました。今も覚えているのは扇風機のことです。夏になると、扇風機をかけ涼しく夏を過ごせ気持ち良かったという話です。うちわしか使ったことがない私にとっては、楽しいいなと羨ましく思いました。

さらに戦争が激しくなり、軍隊も拡大していき通学も危険になっていきました。下校の時、警戒警報が鳴ったかと思ったら敵機の襲来があり、慌てて皆で生け垣の中に隠れて敵機をやり過ごした。そんなことが重なり、生徒は各地のお寺、お宮や集荷場に分散させられました。中野島は観音寺になりました。先生は、多摩川の近くに引っ越した若い丸山先生でした。朝早く先生を迎えに行き、そのまま多摩川に遊びに行っていたことがあります。子供にとっては、のんびりしたときが流れていたように思います。



観音寺

## 第十一回 社会福祉のつどいが開催されました



中野島多世代つながり愛プロジェクト表彰

今年には特に高齢者と児童の事故の多さに心が痛みます。私たちが高齢者も住み慣れた地域で楽しく暮らすことができたと思います。それには仲間作りが一番。その一つに老人会があります。たとえば下校時間パトロールでは、児童を見守りながら地域と関わり、地域を歩けば新しい発見があつて感性が刺激されたり、歩くことで健康な体作りにも役立ちます。親生会では、地域活動、友愛訪問、歩け歩け、グラウンドゴルフ、ペタンク、グートボール、旅行、誕生会、新年会、忘年会、例会等活動していますので、自分に向いている活動を探そうことができます。これからも住み慣れた地域の中で、お互い助け合って魅力あるクラブにしていきたいと思っています。皆さんの入会をお待ちしています。

### 暮らしやすい地域づくりの一言

中野島老人クラブ 第一親生会  
 代表 松浦 郁子

### 掲示板

(一) 餅つき大会  
 中野島こども文化センターで餅つき大会を行います  
 日時 平成29年2月5日(日)  
 予定 10時より13時  
 場所 中野島こども文化センター  
 子供達も餅つきができるよ!!  
 多数の方々の参加をお待ちしています

(二) 下校時見守りパトロール  
 稲田中野島民児協では、毎週水曜日、午後2時より約1時間、中野島町会が実施している、「下校時見守りパトロール」に、親生会老人クラブと伴に参加し、児童の安心安全を見守っています。  
 皆様も、一緒に参加してみませんか。



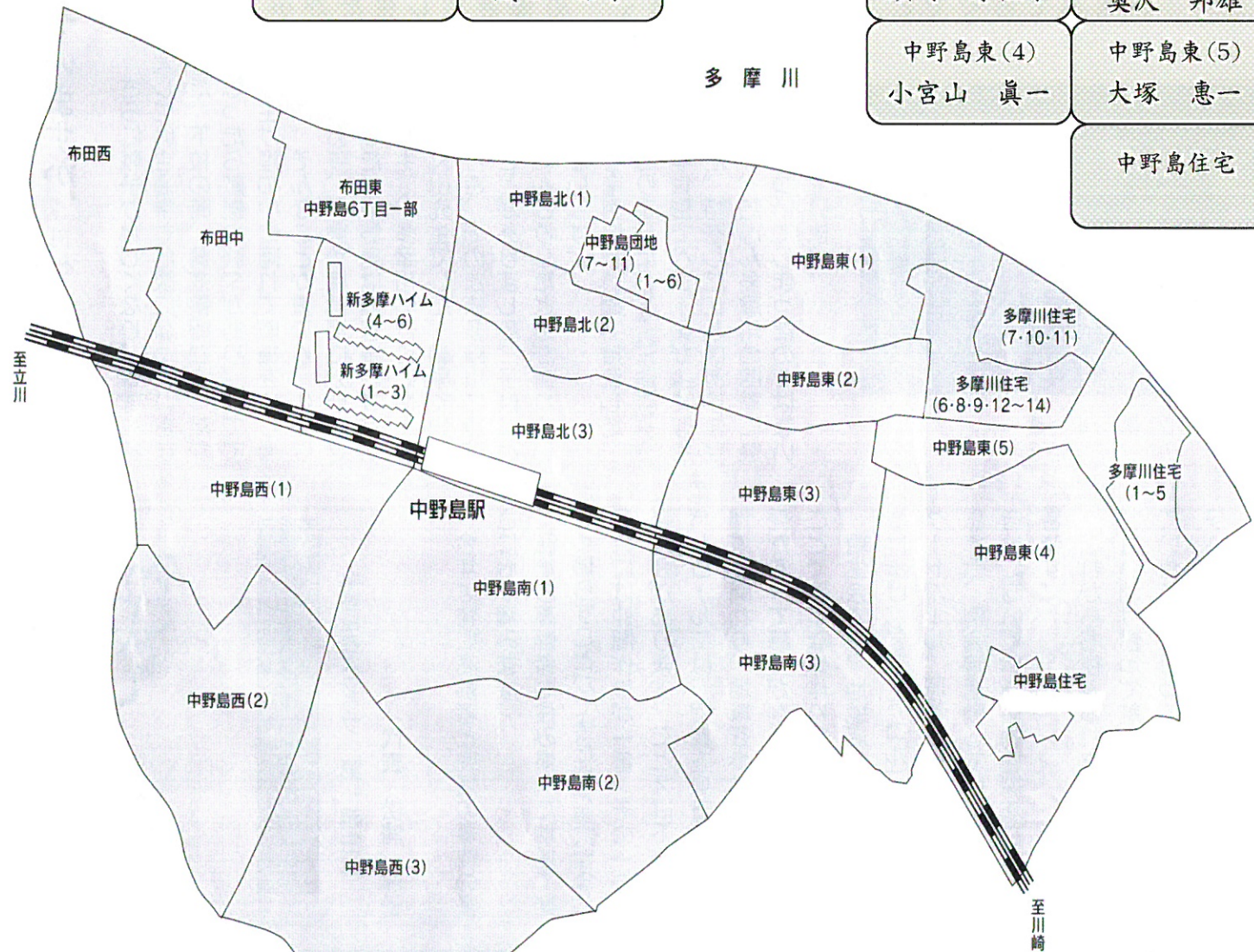
12月3日、おだやかに暖かく晴れ渡った中、中野島小学校アリーナに於いて12時より『第11回社会福祉のつどい』の式典が開催されました。その式典での会長の挨拶の中に“福祉のつどい”を継続しつづけて来ている理由が集約されている様に伺えました。“福祉のつどい”は幼児から老年寄りまで日頃取り組んでいる活

動を発表し合い、顔見知りとなり、相互の理解と思いやりの心を育んで行けるように、との目的意識を持って地道に回数を重ねて来ている活動なのであるという事。どのような福祉の制度や仕組みが出来ても、そこに住む人達の助け合いや協力で勝るものは無い! と言うことであります。そこで今回は、中野島つながり愛プロジェクトを立ちあげ、小学校の子供達にも『皆が笑顔でいられるのは?』との問いを投げかけ、笑顔でいられる場面を子供達にそれぞれじっくり考える時間が与えられた事は、子供達の心の教育に大きな成果があつたのではないだろうか? 子供達がそれぞれ考えた笑顔でいられる場面を絵に起し、それらの中から優れた作品には、式典の最後に賞をも授けられていました。式典が終ると壇上は舞台にと早変わりし、第2部の演芸が小さい子供達から順次発表されていきました。小さい保育園児や身障者の子供達の演技を見ては、よくぞこまごま御指導されて来た!と先生方に拍手を送りたい気持ちになり、片や、お年寄りの踊りや合唱など15種類もの演芸が発表されましたが、どれもお年寄りが皆いきいきと演じている姿に感動しました。ここで最後に“福祉のつどい”が開催される大きな意義がもう一つ存在する事が分かりました。老人会のお年寄りが、この会目指して、日頃から演目のクオリティーを上げる為に努力を積み重ねて来ている、その事こそが、お年寄りの心身共の健康を保ち続けてられているのだと確信しました。医療費削減・介護保険料不足が叫ばれている今、“福祉のつどい”の存在価値が、改めて高く評価される時が来たように思われます。このような価値ある“福祉のつどい”が、末永く開催され続けられるよう祈念してやみません。



あなたの地区の民生委員・児童委員はこの方達です (平成 28 年 12 月 1 日より)  
 民生委員・児童委員の改選 みなさまのお役にたてれば何よりです

布田西 千葉 良樹	布田東 高橋 充	中野島北(1) 阿部 信子	中野島市営団地 (1~6) 伊藤 昭男	中野島東(1) 一柳 宗義	中野島多摩川住宅 (1~5) 高田 祐市
布田中 山内 美幸	新多摩川ハイム (4~6) 平野 稔	中野島北(2) 細田 節子	中野島市営団地 (7~11)	中野島東(2) 鳥海 恵美子	中野島多摩川住宅 (6・8・9・12~14)
	新多摩川ハイム (1~3)	中野島北(3) 浅谷 裕子		中野島東(3) 須崎 摩佐子	中野島多摩川住宅 (7・10・11) 奥沢 邦雄
				中野島東(4) 小宮山 真一	中野島東(5) 大塚 恵一
					中野島住宅



中野島西(1) 田村 秀和	中野島南(1) 石井 笑子	中野島南(2) 大竹 秀明	中野島南(3) 齊藤 芳男	主任児童委員 小島 ひとみ
中野島西(2) 石山 由美	中野島西(3) 浅谷 和男			主任児童委員 田村 潤

社会福祉のつどい アルバム



理事研修会 「地域防災について」 総務部

10月26日(水)多摩区役所危機管理担当 青柳努 主査を講師に迎え、地域防災について理事研修会を開催しました。

今年4月に起きた熊本地震について、川崎市からも職員が災害派遣されたこと、その中で避難所運営支援業務から見えたもの、川崎市職員だからこそできることがあるはずだと、こうした思いを胸に「現地派遣・後方支援を含め一丸となつて被災地支援に行つてきた」と報告がありました。詳しく書いたパネルでは、今回の熊本地震に関する被害状況、川崎市による支援の様子、今後の巨大地震に備えるための取り組み等を教えていただきました。

第二部はいくつかの班に分かれ、三つの設問に対する答えを各自が誰とも相談せずに、「YES」か「NO」のどちらかを選択して、その理由を、のちに各班ごとに順次発表しました。

その中の問いを一つ紹介します。(問)「あなたは母(父)親です、大地震後小学校へ行っている我が子を迎えに行く途中で、人が生き埋めになっているのを発見しました。

周りには人は居ません、しかし我が子も気になる、あなたは目の前の人を助けますか」この問いに対して、30人あまりの出席者でしたが、いろいろな意見が出ました。「目の前の人を助けたいが一人の力では助けられない」、「危険もある」、「誰か他の人を呼んでからでも良いのではないかな」等々。

災害発生時の在宅避難に備えて、食料品や日用品を少し多めに備え、日常の中で消費していき、災害時に自宅で生活することが可能となります。このような考え方を「ローリングストック」と言つそうです。私たちも災害に備えて今から心掛け、準備しておきましょう。



研修会風景 講師 青柳 主査